長洲町立長洲小学校　校長便り　No.１１８

みんなの居場所

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、諺、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和５年９月２１日(木)

【愛語録】

山本五十六の言葉を幾つか紹介します。軍人としての名前があまりにも有名なのですが、私は人材育成のスペシャリストでもあると思います。それが感じられる言葉です。

①やってみせ、言って聞かせて、させてみて、誉めてやらねば、人は動かじ
話し合い、耳を傾け、承認し、
任せてやらねば、人は育たず
やっている、姿を感謝で見守って、
信頼せねば、人は実らず

②実年者は、今時の若い者などということを絶対に言うな。何故なら、我々実年者が若かった時に同じことを言われたはずだ。今時の若者は全くしょうがない、年長者に対して礼儀を知らぬ、道で会っても挨拶もしない、いったい日本はどうなるのだ、等と言われたものだ。その若者がこうして年を取ったまでだ。だから、実年者は若者が何をしたか等と言うな。何ができるか、とその可能性を発見してやってくれ。

③苦しいこともあるだろう
云い度いこともあるだろう
不満なこともあるだろう
腹の立つこともあるだろう
泣き度いこともあるだろう
これらをじっと堪えてゆくのが
男（人）の修行である

人材育成のための指針としている言葉を紹介させて頂きました。３つ目の言葉は人材育成と併せて、思い通りにならない事に直面した時等に思い出します。

【雑感】祈りの折り鶴

昨年、修学旅行に合わせて千羽鶴を作った。子供達が作るよりも早く「ワシが作ったる！」的に、半ば意地になって作った。当然今年も作った。今年は比較的早く取り掛かったので、夏休み中には出来上がった。我ながらよくやるものだ。

ある日ふと「どれくらいまで小さいのができるだろう。」という。疑問が…。思い付いたらモヤモヤの止まらない私、早速実験してみた。すると、３㎝角の折り紙までは何とか素手で折れるようだ。２㎝角は、私の素手では無理なようで、爪楊枝を使えば何とかなるかなという具合だった。という訳で、３㎝角の折り紙で製作開始。

本来、折り鶴というのは、一羽一羽に願いや祈りを込めて折るもの。初めは平和を祈りながら追っていたのだが、この３㎝角の折り紙においては、一羽一羽願いや思いを変えてみることにした。初めは「健康」、「無病息災」、一般的な思いだった。途中、「お金持ちになれますように」とか「宝くじが当たりますように」等と訳の分からないことをお願いしながら、完成前は「疫病退散」、「長洲小児童の健康安全」、「長洲小教職員の健康安全」…、と変わってきた。そして「普段の生活の有難さに感謝」となっている。

日常生活の中でふと我に返ると、不平不満ばかりを口にしている自分がいる。本来、周りのお陰様の自分なのに、それを忘れてしまっているのだ。真摯に、謙虚に、感謝することが生活の中でとても大切なことなのにと、反省する。

世界の不安定さの中、祈ること願うことぐらいしか私にはできないが、それでもやっぱり祈りたい。

シリーズ「自分を語る」#118

中央小学校での初のナイトハイク当日、降り続く雨の前に、成す術もなく熊本駅でしばらく時間を過ごしました。色々気を揉んでも仕方がありません。取り敢えず、歩く前の記念撮影でもしようということになり、駅前広場で数枚の写真を撮って時間をやり過ごしていました。暫くすると雨足が弱くなってきました。今後の天気を調べてみると徐々に雨は止むような予報です。私達は決断しました。

「６年１組諸君！　出発します！」
「イェ～～ィ！」「やった～！」

子供達からは歓声が上がり、保護者からは「えっ、やるの？」という雰囲気？でした。私、得な性格でどうにかなるでしょってな具合で事を進めてしまいます。その日も、レインコートを着てスタートしたにも拘らず、暫くすると完全に雨は上がりました。熊本駅をスタートして河内付近を歩行する時には、レインコートも脱ぎ、やっといつものナイトハイクの雰囲気になってきました。

ナイトハイクには私の教え子達（ナイトハイクの経験者）がボランティア参加してくれます。ナイトハイクを始めた頃、私は先頭から最後尾まで行ったり来たりしながら指導をしていたのですが、教え子達のサポートにより段々そんなことは無くなってきました。サポートしてくれていた教え子達から、現在では数名の教師が誕生し、ナイトハイクを計画する者まで現れ、不思議な感覚になっています。「まさかこんな行事を真似する奴が出てくるなんて…。」

スタートして数時間、夜が更けて周りから音が聞こえなくなってきた頃、子供達は心身の変化と闘いながら歩みを進めます。河内線から国道２０８号線に入る頃でしょうか、午前１時頃だったと思います。事後、保護者の皆様は口々に仰っていました。「ここからが長かった。」と。確かに宇名から荒尾まで見慣れた景色ですが、歩くとなるとその景色が中々変わらず、しかも一本道です。後どれくらいという見当もつくので、「まだ、そんなにあるのか…。」となる訳です。でも、自分で歩みを進めないとゴールには近づきません。歩くしかないのです。午前２時以降の記録写真を見ると殆どの休憩の場面では全員座り込むか、ストレッチをしています。中にはコンビニエンスストアの駐車場で横になる人もいました。当然私は指導者として指導しなければなりませんので、休憩地点でも歩き回ります。実は、この時刻になると、一度座ると立ち上がり再び歩き始める時の苦痛を知っているから、どちらかと言えば座らずにストレッチした方が楽なのです。そのような指導をしているのですが、とは言えですよね。子供達や保護者の皆様の疲労は相当なものだったと思います。

午前４時を過ぎ、ナイトハイク歩行団の距離の差がかなり開きました。教え子達のサポートがあり最小限に食い止めてはいるものの、やはり子供達にとっては初の経験ですからペース配分や歩き方の調整は難しいものがあります。こんな時にはサポーターから連絡が入ります。

「センセ～、○班からです。○○君が座り込んで動きません。どうしますか？」
「今から行く！」　私は逆方向に向かって歩き始めます。　（つづく）

※　「みんなの居場所」に関するご意見ご感想をお寄せください。（「みんなの居場所」への掲載の　可　・　不可　）